

# 底生動物

鹿児島市の川では、121種の底生動物が確認されました。テナガエビ類、コカゲロウ類、ユスリカ類はどの調査地点でも確認され、特に水際の植物や瀬がある地点では、トンボ類の幼虫やカゲロウ類、トビケラ類が多く見られました。和田川では絶滅危惧種のイシマキガイが確認され、甲突川と脇田川の上流ではゲンジボタルが少数ながら確認されており、これらの良好な生息環境が残されていると考えられます。



●イシマキガイ：汽水域に多い。県RDBでは準絶滅危惧に指定されている。



●スクミリンゴガイ：南アメリカ原産の外来種。ピンク色の卵を産む。



●カワニナ：流れのある川に多く、ゲンジボタルの幼虫やモクスガニのエサになる。



●ニッポンヨコエビ：わき水や渓流など、きれいな水にすむ。体を横にして動く。



●ヒラテテナガエビ：ハサミがやや太く、早瀬など流れのあるところにすむ。



●ミナミヌマエビ：植物が多い川や池にすむ。石についた藻などを食べる。



●サワガニ：川の上流にすみ、県内では青白色から赤色までいろいろ見られる。



●ハグロトンボ：流れがゆるやかで植物の多いところにすむ。成虫の羽は黒色。



●シマアメンボ：上流のきれいな水にすむ。羽のないものが多いが、動きが早い。



●コガタノゲンゴロウ：植物の多い水域にすむ。全国的に数が減少している。



●エラブタマダラカゲロウ：中流から下流の流れがゆるやかなところにすむ。



●コオニヤンマ：流れがゆるやかな川にすむ。葉のような平たい体をもつ。



●コガタシマトビケラ：石の下に小さな網をはり、引かなかった植物を食べる。



●ゲンジボタル（幼虫）：清流にすむ水生昆虫の代表種。5月ごろ羽化する。